

【2017年2月5日実施（石垣フサキ沖リーフチェックのコメント）

2017年2月15日 チームサイエンティスト 吉田稔

○3mライン

3mラインはその細長い根の天端部に設定された。サンゴ類の目視での被度は5~10%程度で、RC底質調査のハードコーラル占有率は11.9%であった。昨年の白化現象でミドリイシ類はほとんど死亡している。生残しているサンゴ類は、アザミサンゴ、ハマサンゴ類、キクメイシ類、ソフトコーラル類、ハナヤサイサンゴ類などが見られる。

また、直径3cm以下の新規加入のミドリイシ類は8mラインに比べて少なかった。

オニヒトデ、病気、貝類の食痕は確認できなかった。

無脊椎は出現種数、個体数ともに少ないが普通に見られるものが普通に確認された。しかし魚類は今までの調査年度と比較して出現種数、個体数ともに減少傾向にある。

○8mライン

8mラインはその細長い根のスソ部（最下部）に設定された。調査区間全体の三分の一が砂礫底であった。サンゴ類の目視での被度は5~10%と5mラインと比較してややサンゴ類が多い感じがした。RC底質調査ハードコーラル占有率は23.8%であった。昨年の白化現象でミドリイシ類はほとんど死亡している。生残しているのはハマサンゴ類、キクメイシ類、オオトゲサンゴ類、ハナヤサイサンゴ類などであった。生残しているサンゴ類も比較的小型のものが多かった。また直径3cm未満のミドリイシ類の新規加入も根の天端部と比べて比較的多く確認できた。オニヒトデ、病気、貝類の食痕は確認できなかった。魚類、無脊椎に関しては3mラインの傾向であった

○総評

八重山海域において昨年大規模なサンゴの白化現象が生じた。フサキ沖のRC地点も大きな被害が出ている状態である。一番の原因は例年6月ぐらいから八重山海域に接近する台風が9月中旬まで一度もなかったことである。フサキ沖海域は7月上旬ぐらいから白化が顕著になり9月上旬にはほとんど死亡しているような状況であった。石西礁湖海域と比べ早い段階で白化現象が始まった。

RCを実施した2017年2月5日では、生残しているサンゴ類はほとんど健全な状態であり一部白化している群体などは見られなかった。(HCのうち白化しているサンゴの数はなし、HCのうち白化しているサンゴの割合は0%)

また、2年ほど前に着底した新規加入の直径2cm程度のミドリイシ類が調査対象の根に比較的多く確認できたので早い段階でミドリイシ類が台頭してくると思われる。

以上